

## 「知ることは大事」…性の多様性について

講師：中塚幹也 岡山大学大学院保健学研究科教授、ジェンダークリニック医師

場所：岡山大学医学部保健学科棟多目的室「リプロカフェ」 参加者：9名

日時：2017年8月22日

中塚先生から多様な性～LGBT、セクシャルマイノリティ、SOGIの基礎知識と具体的な支援策について学びました。「セクシャルマイノリティ」との表現について、「マイノリティ」とは少数を意味することから、劣っているというニュアンスがあり、LGBTやSOGIも性のグラデーションや多様性を全部包含することにならないので違和感を持つ人もいたとのことでした。博報堂や連合の調査では約8%、13人に1人が当事者と報告されています。2016年6月、国連人権理事会は「性的指向と性自認を理由とする暴力と差別からの保護」に関する決議を可決しています。

当事者の悩みの中でも大きいのは「トイレ」の課題です。アメリカではトランプ大統領が「心の性でトイレの使用を」とのオバマ前政権の通達を撤回し時代の流れと逆行する展開になっています。日本ではドン・キホーテがALL GENDER用のトイレを設置するなど、企業が当事者に配慮した取り組みが見られるようになりました。東京都渋谷区のパートナーシップ証明書の発行等自治体の取り組みも少しずつ広がってきています。厚生労働省はセクハラ防止指針にLGBTを対象にすることを明文化し、自殺総合対策大綱を見直し、自殺の要因となりうるとして生活困窮、児童虐待などと共に「性的マイノリティ等」の文言が掲載されることになりました。

今後企業や行政ができることとして、研修やダイバーシティ宣言、同性パートナーを配偶者とみなすことや不要な性別欄を廃止、だれでもトイレなど、すぐ取り組むことができる事例や、市民憲章や人権など行政が策定する様々なプランの中に、言葉としてLGBT支援を盛り込むことなど具体的な助言もいただきました。多目的室の入り口には「リプロカフェ」の文字と共に「あなたが答えを見つける空間」との言葉が添えてありました。支援者（アライ）として1番大事なことは普通であること。当事者が普通に教育を受け、仕事に就き、結婚し子育てをすることであるとの言葉を重く受け止めました。お忙しい診察の合間の時間を割いていただき、感謝申し上げます。

(文責 中原淑子)

〈お知らせ〉

※ 第20回GID学会東京大会2018年3月24日・25日

※ 「封じ込められた子ども、その心を聴く 性同一性障害の生徒に向き合う」

ふくろう出版 中塚幹也著